



# ファンドマネージャー 秋野 充成の AKINO REPORT



代表取締役社長 秋野充成

 いちよしアセットマネジメント

FM 今週のポイント (6月29日)

\*AI・半導体集中相場の潮目が変わりそうです。先週の国内株式市場は日経平均株価が25日、3191円上昇し、史上最高値を更新しましたが、26日には3005円の急落となり、高値波乱の様相を呈しました。25日の急騰は、マイクロンの好決算と株価急騰がきっかけです。そして26日の急落は、オープンAIのIPO延期報道を嫌気したものです(AI・半導体集中相場の極まりに警戒感が募る中でIPO延期報道が利益確定・ポジション調整の引き金となった)。米紙ニューヨーク・タイムズは25日、オープンAIが計画中のIPOを2027年に延期することを検討していると報じました。株式市場が不安定で、1兆ドル(約161兆円)という時価総額の目標達成が不透明なことが一因です。オープンAIは8日、IPOに向けた目論見書にあたる「S-1」の草案を内容非公開で米証券取引委員会に提出しました。上場時期について同社は「決定していない。しばらく時間がかかる可能性がある。」としていましたが、マーケットでは年内との見方が大勢でした。12日に史上最大の調達額で上場した米スペースXの株価が16日をピークに下落に転じ、26日の終値は153ドル台と上場初日の160ドルを下回っていることも影響しています。AI・半導体集中相場をもたらした要因の一つ、ハイパースケーラーの巨額投資継続に黄色信号点灯です。

\*原油価格が想定外の下落です。26日のWTI先物価格は一時、1バレル68.56ドルを付けました。イラン紛争下では最安値となり、衝突直前の2月27日終値の67.02ドルに近づいています(北海ブレント先物も軍事衝突前の水準となる71ドル台を付けた)(26日夕方に米中央軍はイランのミサイルやドローンの保管庫などを攻撃したと発表しましたが、攻撃発表後の米東部時間同日午後4時40分ごろのWTI先物は69ドル台と大きな反応は示していない)。

\*原油価格の下落を受けて、米BEI(ブレイク・オープン・インフレ率)が大きく低下しています(10年BEIは25日に2.18%まで低下、2024年9月以来の水準)。ウォーシュ議長就任以来、タカ派イメージが先行するFRB⇒マーケットにおいては、9月にも25bpの利上げが実施されると予想しています(CME FedWatchによると9月のFOMCにおいて米政策金利が25bp引き上がる確率は63.2%)。しかし、原油価格がこのまま正常化すれば(ガソリン価格の低下にはタイムラグがあるとしても)、インフレ圧力の低下から、早急な利上げ回避につながる可能性があります。

\*そして、国内要因として注目されるのが、「骨太の方針」です。すでに、日経新聞の報道で、2040年までに官民で、370兆円の投資が計画されています。戦略17分野のうち、AI・半導体分野に101.6兆円、デジタル・サイバーセキュリティ分野に55.4兆円、バイオ・創薬・先端医療分野に76.9兆円、コンテンツ分野に33.7兆円、情報通信分野に28.8兆円、資源エネルギーGX分野に28.8兆円、航空・宇宙分野に18.5兆円等が主なターゲットです。日本成長戦略会議(高市内閣)が提唱する「高圧経済政策」=「需給ギャップ+2%」は十分に達成可能な数値であると思います。もちろん、財源は、「成長投資国債」、「危機管理投資国債」等の「つなぎ国債」に依存することになり、債券マーケットの信認が得られるか否かが成否のポイントです。ただし、株式マーケットでは期待先行となりやすい材料です。

\*ハイパースケーラーの巨額投資継続見通しに陰りが見られ(オープンAIのIPO延期報道)、原油価格が想定外の下落となり(供給制約リスクの低減)、年内利上げが回避される見通しが高まれば(ゴールドロックシナリオへの回帰)、AI・半導体集中相場からの転機となります。しかも、分散の受け皿として「骨太の方針」セクター・銘柄があります。25日にNT倍率は18倍まで上昇しました。26日は17.5倍まで低下しました。当面、16.5倍レベルまで徐々に低下を見込みます。待望の分散相場への転換です。

裏面をご覧ください。

## 『 重要な注意事項 』

- この資料は、市場の現状の説明資料の一部としていちよしアセットマネジメントが作成し、いちよし証券がいちよしアセットマネジメントとの営業代理契約に基づいて提供するものです。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられております。
- この資料は、いちよしアセットマネジメントが信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて同社により作成されたものですが、過去から将来にわたってその正確性、完全性を保証するものではありません。
- この資料は、投資の参考となる情報の提供を目的としたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。
- この資料に掲載されたデータ・グラフ等は過去の実績またはシミュレーションであり、将来の成果を示唆、あるいは保証するものではありません。また、記載された見解等の内容はすべて作成時点でのいちよしアセットマネジメントの判断であり、今後予告なく変更されることがあります。
- 投資一任業務による有価証券投資は、株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。投資運用によって発生する損益はすべてお客様に帰属します。したがって、預貯金とは異なり投資元本が保証されているものではなく、一定の運用成果を保証するものでもありません。

## ○諸経費および投資リスクについて

- 投資顧問料については、契約資産に対して年金料率で最大0.4536%(税込み)の報酬をいただくこととなります。また、契約により所定の成功報酬をいただく場合があります。その他売買手数料等の間接的な経費がかかりますが、経費の総額については委託した証券会社により手数料率等が異なるため、上限額等を表示することができません。
- お客様のために行う取引については、株式、新株予約権付社債、公社債等の有価証券に投資しますので、国内外の経済・政治情勢、金利変動、発行体の業績や財務状況等の変化の影響により、投資した有価証券の価格が下落し、損失が生じるおそれ(外国証券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれ)があります。
- 信用取引やデリバティブ取引を行う場合は、差し入れた証拠金等の金額以上の取引を行う可能性があるため、原資産となる有価証券や指数等の価格変動により、差し入れた証拠金等を上回る損失が生じるおそれがあります。また、デリバティブ取引等の額の証拠金等の額に対する比率は投資方針や市場の動向等により変化するため、その比率を事前に示すことができません。
- 諸経費およびリスクについての詳細は、契約締結前交付書面をよくご覧ください。

商号等： いちよしアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号  
加入協会： 一般社団法人 資産運用業協会